

# よしもと和広の

## 町議会報告

2019年1月



日本共産党上富田町委員会

吉本和広 ☎ 08053301493

### 国民健康保険保険税の 引き下げについて

国民健康保険加入者は、「保険料が高い」という印象を持たれているのではないのでしょうか。実際、国民健康保険は他の社会保険と比べ、家計に占める割合が大きく、加入者の負担となっています。このことについて議会で質問をしました。

国民健康保険料は自治体によって異なっていますが、上富田町では下記の表のように集めた保険料の一部を国保基金として蓄えています。

〈高過ぎる国民健康保険料に悲鳴が上がっている〉

**よしもと** 全国の国保加入者の一人当たりの平均保険税は中小企業の労働者が加入する協会けんぽの1.3倍、大企業の労働者が加入する組合健保の1.7倍という水準です。

全国では、この25年間に一人当たりの国保税が月6万5千円から9万4千円に上がっています。しかも同時期での国保加入世帯の平均所得は年276万円から138万円に半減しています。今、加入者の43%は「無職」、34%は「非正規雇用」で、合わせて約8割近くになります。

政府は1984年に国民健康保険への定率国庫負担を削減したのを皮切りに、国庫負担を抑制し続けてきました。国の責任後退と国保加入者の貧困化、高齢化が進むなか、国保税の高騰が止まらなくなったのです。

2014年、全国知事会は保険料を「協会けんぽ並み」に引き下げるために、「1兆円の公費負担増」を政府に求めました。また、家族が多いほど負担が重くなる「均等割」の見直しの要求が出されています。

全国知事会の国への要望について、考えをお聞かせください。  
**町長** 年齢構成が高いことにより医療費水準が高く、低所得者の増加により保険税の負担が重くなるという構造的な問題を抱えております。国庫負担の引き上げなどの国保財政の基盤の充実、強化が必要になると考えています。さらなる公費負担の拡充につきましては、全国町村会を通じて国に要望していきます。

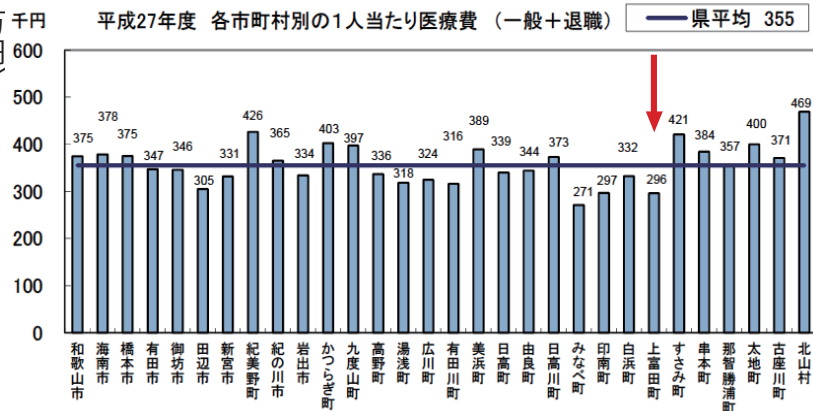
**よしもと** 日本共産党も国が公費を1兆円投入して保険料を「協会けんぽ並み」に引き下げる必要があるとの政策を先日発表しました。

ぜひ国保制度を住民が払える制度になるようにしたいと思えます。

表1

	基金積み立て	基金合計	一人当たりの基金額
平成22年度	0	4927	
平成23年度	50,000,000	50,004,927	9,308
平成24年度	100,002,048	150,006,975	28,524
平成25年度	30,019,489	180,026,464	35,367
平成26年度	60,025,643	240,052,107	48,320
平成27年度	50,028,769	290,080,876	60,636
平成28年度	50,002,839	340,083,715	75,157
平成29年度	50,003,324	390,087,039	90,089
平成30年度	20,000,000	410,087,039	95,000

表2



〈積立てた基金 4億1千万円〉

**よしもと** 特別会計の国保事業は、その年に徴収したお金が余れば、その分を住民に返すべきものです。しかし、上富田町はそれを返さず、表1のように平成23年度から基金として積み立て、この12月の補正で出ている2千万円の基金を合わせると、その積立額は8年間で約4億1千万円にも上ります。この額は、加入者一人当たり約9万5千円にもなります。

平成29年度、一人当たりの医療費として实际需要であった国保の費用は約9万2千円でした。来年度、積み立てている基金を使うとすれば、保険料を無料にすることもできます。それほど基金は貯まっているのです。

表2のように平成27年度の上富田町の一人当たりの医療費は、県下では、みなべ町に次いで2番目に低く、上富田町の住民は他の市町村に比べてあまり医療費を使っていないことがわかります。それなのに、6月まで表3（裏面）のように国保税は県下で3番目に高くなっています。基金を積み立てた分、国保税が高くなったのです。基金を貯めた年に保険料を支払った人は、移住したり、亡くなられたりすると、一人当たり9万5千円、4人家族なら単純に計算して36万円の必要以上の負担を強いられたこととなります。

上富田町の一人当たりの医療費（診療費）は、大きく変動していません。インフルエンザが予想外に流行っても2千万円もあれば対応できると担当課は話していました。

今ある基金はある程度基金として残す部分と住民に返す部分に分ける必要があると考えます。